



## 【活動紹介】EMで由緒ある池の蓮を復活させたい 滋賀県近江八幡市安土町 福島弁財天

琵琶湖の内湖である「西の湖」近く田畑の中にポツンと小高い森がある。住所は近江八幡市安土町下豊浦であり、戦国時代からあった地名だと言う。目安として安土城跡から西に1kmほどで周囲は約100mでさほど大きくはないが、由緒がありそうなお堀に囲まれた社がある。現在、社の周りは田畑がほとんどだが、この地は干拓地なので、その昔、周囲は湖で水に囲まれた小さな島だったと思われる。



福島弁財天の入口、鳥居と名称石碑の間に由緒書の石碑がある

名称は入口鳥居のそばの石碑と由緒書の石碑から福島弁財天とある。由緒書や地元教育委員会の看板から、この社は戦国時代に地元の信心深い文吉と言う漁師が嵐で遭難し難破したにもかかわらず命が助かった。その時の夢に現れたのが弁財天であったので、助かった場所にお礼として小さな祠を建てたのが始まりだと言う。その後、現在の地である下豊浦に大阪の商人が弁財天のご本尊を安置して祀った。そして地元の人たちに大事にされ、

福が授かる「福の島の弁財天」として現在に至っている。

地元安土町でEMによる環境改善などの活動をしているオーガニックステーションEM安土（中川次代代表）の方々から「福島弁財天の大祭の時に、数年前まではお堀のところ狭しと蓮の花が咲き、それは見事だった」と言う話がでて、EMでお堀に蓮を復活させようということになった。

この社の周囲には桜や藤が植えられて春には花見ができ、近くの人にとって身近な花見場所であるが、秋の紅葉もきれいだと言う。ここに蓮が復活すれば、初夏を彩り更に新たな花見の場所が加わり、一年中楽しめる絶好の花見場所になりそうだ。

さらにもっと大事なことは、ここに祀られているきれいな好きな弁財天様がお喜びになることだ。現在、お堀の水はきれいではないので、EMが継続的に投入されることで水質が改善されて、蓮が復活しカエルなど水生動物が増えて生態系が豊かになる。そして、関係者の方々は清々しい環境が整備されるのが待ち遠しくなる



福島弁財天を囲むお堀の現在、数年前までここは見事な蓮で覆われていた